

女性からの逆プロポーズが増加傾向に

2人だからこそ生まれる温かいエピソードに会場も笑顔

NPO法人地域活性化支援センター(静岡県静岡市)による、少子化対策と地域活性化を目指した「恋人の聖地プロジェクト」。プロポーズに相応しいロマンティックな場所を「恋人の聖地」として選定しており、結婚に対する憧れを高めていく役割を担っている。そこから派生した「第10回全国プロポーズの言葉コンテスト2016」。理事を務める桂由美氏、華道家の假屋崎省吾氏、恋人の聖地親善大使の春香クリスティーンさん、IMALUさんらも駆けつけ、審査の行方を見守った。4029点の応募から選ばれた、栄えある第1位となったのは。

公開プロポーズで最優秀賞親善大使の2人からも拍手

5月19日、NPO法人地域活性化支援センター(静岡県静岡市)主催の「第10回全国プロポーズの言葉コンテスト2016」が、青山セントグレース大聖堂(東京都港区)にて開催された。

今年の応募総数は4029点。60%以上が女性からのものと、「プロポーズは男性から」という従来の考え方が変わりつつある傾向が見られた。ファッションデザイナーで、同プロジェクトの理事を務める桂由美氏は、



▲最優秀賞に輝いた公開プロポーズを快諾し、握手のシーン



▲恋人の聖地サテライト銘板授与式も

この10年間で、いかに女性がパワフルになったかを感じた一方で、「愛する男性からプロポーズされたいという憧れは多くの女性も積極的」に愛の気持ちを伝えてほしい」と語った。

発表は全部で3部門。これからプロポーズの部(未婚者)、今だから伝えたいプロポーズの部(既婚者)、今!ここでプロポーズの部(授賞会場での公開プロポーズ)に分けられ、当日は全20作品が発表された。

最優秀賞は、公開プロポーズを行なった、千葉県船橋市の川隅由貴子さん。2人の共通の趣味が登山ということから、スニーカーにリュックと山登りの姿で登場した。マップの裏に2人のこれまでの思い出の写真を貼り、アルバムにして彼氏に渡す

など、プロポーズする前から感極まりすでに涙が溜まっていた。そんな川隅さんのプロポーズの言葉は、「私がお婆ちゃんになっても手を引いて一緒に山に登ってくれますか?」

これから歳を重ねても、いつまでも2人で大好きな登山を続けたい。体力に自信がない川隅さんを常に引っ張っていつまでも大好きな彼への逆プロポーズだ。涙を流しながら声を震わせ、一世一代の告白をする川隅さんに対し、彼氏は笑顔でプロポーズを快諾。会場は拍手喝采、温かい気持ちに包まれた。

恋人の聖地親善大使・婚活大使を務めるIMALUさんは、「文字だけで見るとシンプルな言葉

でも、そこに裏付けられた2人だけのストーリーがある。だからこそプロポーズは特別で、かけがえのないものになる」と語った。

新たに恋人の聖地親善大使に任命された春香クリスティーンさんは、「女性からの逆プロポーズが多くてびっくりです。その一方で、私達女からもアプローチをかけてもいいという勇気をもらいました。今日の発表を聞いて自分がプロポーズされているかのように感動。素敵な結婚生活を送ってほしいですね」と笑顔を見せていた。

結婚生活を支える言葉

「このプロポーズの言葉コンテストも早いもので今年で10回目となりました。応募数も年々増加傾向にあり、どんな言葉をカップルは交わすのか、毎年この時期が楽しみでわくわくしています。プロポーズとはその時一瞬の言葉ではなく、これから始まる結婚生活を長く支えてくれるものです。一緒に暮らしていく中で、辛いことやすれ違いもあるでしょう。そんな時、大好きなパートナーからの忘れられない告白を思い出せたなら、初心に戻り、長く幸せな結婚生活に繋がってくるはずですよ。」



ファッションデザイナー 桂由美氏

上位4作品のプロポーズの言葉とそのエピソード

	言葉	エピソード
最優秀賞 (女→男)	私がお婆ちゃんになっても手を引いて一緒に山に登ってくれますか?	2人の共通の趣味が登山で、体力のない私をいつも引っ張っていつまでも一緒に登山を楽しみたい。
特別賞 (女→男)	今まで辛いこと苦しい事たくさんあったけど、何度生まれ変わっても貴方に出会えるなら私はこの人生を選びます。結婚してください。	孤児として施設で育った私に、愛し愛される喜びを教えてくれた彼。帰る場所がある安心感、たくさんの笑顔くれる彼に、笑顔を届ける逆プロポーズ。
特別賞 (男→女)	どうしても結婚したいから…学生の今、この指輪を受け取って下さい。社会人になったら、とびっきりの指輪でもう一度プロポーズさせてね。	学生カップルのプロポーズ。一緒にいる時間が長くなり、当初から考えていた結婚願望がより強くなった。今はまだ豪華な婚約指輪ではないけれど、その時が来たら、もう一度プロポーズを。
特別賞 (女→男)	あなたは国を守って下さい。私がおあなたの帰る家を守ります。	自衛隊として第一線で活躍する夫。災害が起きる度に家を出るため、家族を守れない立場にある。そんな夫を守るのは私の仕事。好物を用意して、安らげる家で帰りをいつでも待っている。